

西川緑道公園核にまちづくり 岡山大と岡山市協定

岡山大と岡山市は8日、西川緑道公園を核とする市中心部のまちづくりを協力して進めるため「まちづくりに関する地域連携協定」を結んだ。同大が公園沿いに20日開設する学外施設「西川アゴラ」

の魅力を向上につなげる情報発信などで連携していく。具体的には、民間ビル2階の一室（約90平方メートル）に開設する西川アゴラで、岡山大がまちづくりに関する講演会やワークショップ

人材育成や情報発信

（同市北区田町）を拠点を企画。市は講師の紹介などで協力する。またJR岡山駅南の「イオンモール岡山」開業後、公園周辺の歩行者の通行量調査を市が同大へ委託して実施することも検討している。

調印式は同大津島キャンパス（同市北区津島中）であり、森田潔学長は「全力を挙げて市と協働のまちづくり

を進めていきたい」とし、大森雅夫市長は「柔軟な学生の知恵を取り入れていきたい」と述べた。（岸研一）

協定書に調印し、握手する森田学長（左）と大森市長

